

国民民主

KOKUMIN MINSHU PRESS

国民民主党 国民民主プレス 編集部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-3 Nagatacho GRID 4F

TEL : 03-3593-6229 MAIL : info@new-kokumin.jp H P : new-kokumin.jp

こくみんみんしゅ

Press

号外

2022年2月

【連絡先】国民民主党茨城県第5区総支部(浅野さとし事務所)

国会事務所

〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館406号室
TEL : 03-3508-7231
FAX : 03-3508-3231

日立事務所

〒317-0071
茨城県日立市鹿島町1-11-13
TEL : 0294-21-5522
FAX : 0294-21-3014

公式サイト

<https://asanosatoshi.com/>



スペシャル
対談企画!

茨城県の未来を語る



衆議院議員

浅野さとし

茨城県知事

大井川和彦

※撮影のためにマスクは外しています

2022年新春特別企画として、本年も大井川和彦 茨城県知事との特別対談を実施させていただきました。

対談では、東京五輪や各種選挙を開催しつつ新型コロナウイルス感染症の対策に全力を注いだ
2021年を振り返り、オミクロン株という新たな脅威に直面する自治体の対応状況や
2022年の展望についての思いを語っていただきました。

2021年の振り返り

浅野 昨年は、コロナへの対応も続く中、東京オリンピック・パラリンピックや茨城県知事選挙、県政150周年行事などたくさんのイベントがあり、大変慌ただしい一年だったと思います。

特に印象に残っていることを教えてください。

大井川 昨年は、県民の皆様のご協力のもと、新型コロナウイルス感染症対策に全力を尽くした一年でした。刻々と変化する状況を絶えず分析しながら、先手先手で対策を講じたことで、かつてない感染の大きな波となった第5波においても、医療崩壊を何とか食い止めると

もに、感染者が容体悪化時に適切な治療を受けられず、自宅で亡くなるという事態を避けられたことは、大きかったと思っています。

また、東京2020オリンピックでは、サッカー競技を茨城カシマスタジアムにおいて開催できたことに深い感慨を覚えました。特に、コロナ禍で多くの会場が無観客となる中、学校連携観戦プログラムにより、次世代を担う子どもたちに、自国開催のオリンピックを観戦するという、心に残るまたとない機会を提供できたものと考えています。

こうした中、2021年9月の茨城県知事選挙では、コロナ禍といった大変厳しい状況下にもかかわらず、県民の皆様から約66万票もの大きなご支援をいただきました。



これは、1期4年間の県政運営において、「挑戦」「スピード感」「選択と集中」という3つの基本姿勢を徹底しながら「新しい茨城」づくりに全力で取り組んだことにより、企業誘致や医師確保、教育改革など、様々な分野で茨城県が大きく生まれ変わり、活力・活気を取り戻しつつあることを、県民の皆様が強く実感してくださったことの表れではないかと考えています。

昨年も、国内最大級の車載用次世代リチウムイオンバッテリー工場の立地が実現するとともに、医師確保では、これまでに6名の医師を確保した日立製作所日立総合病院で、12年ぶりに地域周産期母子医療センターを再開することができました。

私の2期目のスタートとなった昨年は、明治4年に行われた府県統廃合により茨城県が誕生してから150年目の節目の年でした。先人たちが積み重ねてきた努力により培われた本県の潜在能力をしっかりと活かし、更なる飛躍につなげ、「新しい茨城」をつくっていく決意を新たにいたしました。

浅野 改めて、2021年は様々な出来事があったことを思い出しました。特に周産期母子医療センターの再開は、まさに県北住民の念願が形になった出来事でした。これは茨城県として、当初から必要な医師数を具体的に定めて取り組んでいただいた事が推進力につながったと感じます。引き続き、県内の医療提供体制の充実への取り組みをお願いいたします。

大井川 先ほども申し上げましたが、先手先手の対策により、第5波においても医療崩壊を食い止め、また、感染者が容体悪化時に適切な治療を受けられず自宅で亡くなるという事態を回避できました。

また、ワクチン接種についても、県内5カ所に大規模接種会場を設置するなど、戦略的かつスピード感を持って進め、市町村との連携のもと、10月末までに12歳以上の県民の8割に対し、2回目の接種を完了するとした目標についても達成することができました。

国内の感染状況は、ワクチンの効果などにより落ち着きを見せ、日常を徐々に取り戻しつつありましたが、本県を含め各地でオミクロン株が確認されるなど、依然として予断を許さない状況が続いています。

そのため、3回目のワクチン接種について、市町村とも連携しスピード感を持って対応するとともに、新たな対策として、薬局等における感染不安がある方への無料検査の実施のほか、クラスターの発生防止として、福祉施設等の従事者に対する週1回の検査実施などを要請しています。

また、大規模接種会場の再開の前倒しや、入院患者、軽症者・無症状者の急増に備えた運用病床の拡充と宿泊療養施設の開設も進めているところであり、引き続き、県民の皆様への命と健康、そして暮らしを守ることを最優先に、医療提供体制をしっかりと確保していきます。

更に、感染拡大防止に万全を期しながら、コロナ禍で落ち込んだ県内経済の早期回復に向け、先手先手で取り組んでいきたいと考えています。

浅野 まずは、オミクロン株への対応など、感染拡大防止に向けた対策の徹底をお願いします。

そのうえで、県内経済の回復に向けては、各業界と連携し「ワクチン・検査パッケージ制度」を上手に活用することが重要だと思っておりますので、県が2021年12月27日から開始した健康上の理由によりワクチン未接種の方などに対する無料のPCR検査・抗原定量検査を活用して、社会経済活動再開のモデルケースを増やしていけるよう、県側のサポートをお願いいたします。

新型コロナ対策について

浅野 茨城県は、コロナ対策のために検査体制／医療体制の拡充や大規模ワクチン接種会場の運営、各種の事業者支援策など様々な施策をすすめてきました。

直近の状況や今後のコロナ対策について教えてください。

政府への要望等について

浅野 私が印象的だったのは、感染ピークが本格化する少し前（ステージ2）の段階から、大井川知事は「まん延防止等重点措置」を茨城に適用するよう政府に何度も働きかけていた点です。結局、政府はステージ3になってから適用することを決めましたが、私は当時の政府の判断は遅すぎたと思っています。また、今でもコロナ検査体制の充実やワクチン接種への対応、雇用・経済の

回復、教育や福祉の下支えなど多くの課題が残されています。

政府への要望や国会への期待があれば教えてください。

大井川 昨年4月から6月の第4波においては、本県への「まん延防止等重点措置」の適用が残念ながら見送られました。そうしたこともあり、感染が急拡大した第5波では、感染状況の分析をもとに、「まん延防止等重点措置」を飛び越え、「緊急事態宣言」の早期適用を国に求めるなど、スピード感を持って対応しました。

国に対しては、感染の急拡大時には、現場にいる知事の判断を尊重し、仮に基準に満たなかったとしても、「緊急事態宣言」などの最大限の措置を適用し、感染拡大に急ブレーキをかけるなど、柔軟に対応することを求めたいと思います。

また、ワクチン接種についても、県民の命と健康を守るため、地方の判断で、2回目の接種から6ヵ月経過後に3回目の接種が開始できるよう国に要請してきましたが、是非、柔軟な対応と併せ、必要となるワクチンについても、しっかりと供給いただきたいと考えております。

人口減少が急速に進行する中、ポストコロナを生き抜くためには、女性活躍はもとより、性的マイノリティや外国人など、多様な人材が活躍できる体制の整備が必要だと考えています。特に、生産年齢人口の減少により企業の人手不足が年々深刻化しており、外国人材について、広く活躍できる環境づくりが必要です。

このため、熟練した技能を持つ外国人材を在留期間の上限なく更新することができる特定技能2号について、建設や造船・船用工業だけでなく、農業をはじめとした他の特定産業分野にも拡大していく必要があると考え、全国知事会を通じて国に提言しています。国においても、現在、検討が進められていると承知していますが、しっかりと対応していただきたいと考えています。

浅野 分かりました。今のご要望を政府に伝えます。また、多様な人材が活躍できる社会づくりや外国人材の活用の在り方などについては、国の在り方にも関わる重要なテーマなので、通常国会の中でもしっかりと議論をしていきたいと思っております。



電所や最新鋭の火力発電所、LNG基地など様々なエネルギー関連拠点が集積しており、大きなポテンシャルがあります。

茨城県は昨年「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会」を立ち上げて議論をすすめているようですが、今後の展望や県北地域への期待などがあればお聞かせください。

大井川 カーボンニュートラルにつきましては、環境問題への対応が世界的な潮流となっている現状を好機と捉え、本県の更なる成長の原動力となる骨太な産業の創出を目指すため、昨年5月に、「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト」を立ち上げました。

その後、官民学の連携強化に向けた協議会を設置するとともに、水素やアンモニアなどの次世代エネルギーの需要と供給を臨海部で一体的に創出するため、茨城港と鹿島港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けた取組みを進めています。

今後は、カーボンニュートラルの実現に向けたチャレンジな取組みが県内で次々に展開されるよう、次世代エネルギーのサプライチェーン構築や、クリーン電力、カーボンリサイクルの拡大などのプロジェクトを推進し、高い競争力を持つ産業拠点の創出に努めてまいります。

県北地域では、茨城港日立港区が、世界最大級のLNG基地を有し、首都圏全体のエネルギー供給拠点となっていることから、「カーボンニュートラルビジネス促進区域」に位置付けたところであり、この利点を活かし、関連ビジネスを創出することにより、地域経済の活力につなげていければと考えています。

浅野 私は国会内でエネルギー政策を議論する機会も多いので、この分野には大変注目しており、茨城県内のカーボンニュートラル政策動向にも大変注目しています。国と自治体の動きがシンクロするよう橋渡しをしていきたいと思っていますので、ぜひ知事とも連携させてください。よろしくお願いたします。

カーボンニュートラルに関する取組みについて

浅野 今後の産業振興策には、カーボンニュートラルへの対応がより重要になると考えており、私が住んでいる県北地域には日立グループの各事業所をはじめ、原子力発

2022年の抱負

浅野 最後に、今年こそ新型コロナウイルス感染症の話題ばかりでなく、明るい話題もたくさん生まれる良い年にしていきたいものですが、今年一年間の目標や抱負があれば聞かせてください。

大井川 まず、コロナ対策では、第6波に備えた対策の強化と3回目のワクチン接種をスピード感を持って進めるとともに、国の補正予算なども活用しながら、県内経済の早期回復を目指していきます。

一方で、コロナ禍の影響により人々の価値観や生活様式などが大きく変化していることに加え、気候変動問題、AIの進歩による社会構造の変化、更には人口減少の大きな波が押し寄せるなど、これまでとは全く環境が異なる、予測困難な「非連続の時代」を迎えています。

この困難な時代を乗り越えるため、私たちには、前例踏襲や横並びではなく、変化や失敗を恐れず、新しいことに果敢に挑戦し、自ら未来を切り拓いていくことが求められています。

現在、今後4年間の県政運営の新たな基本方針となる県総合計画の策定を進めていますが、茨城の潜在能力を引出してきたこれまでの改革路線のもと、「新しい茨城」づくりに向け、「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」の4つのチャレンジを常に進化させながら加速していきます。

また、将来を見据え、先ほど申し上げたカーボンニュートラルへの対応や、フードロス対策、DXの推進などの中長期的な課題にも、積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

本年も、自らの変化や失敗を恐れず、新しいことに果敢に挑戦するという初心を貫きながら、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。

浅野 本日はどうもありがとうございました。



第207回国会における役割

所属委員会

- ▶ 議院運営委員会
- ▶ 原子力問題調査特別委員会
- ▶ 内閣委員会

党内での所属調査会

- ▶ エネルギー調査会（会長）
- ▶ 国対委員会（委員長代理）
- ▶ 税制調査会（事務局長）

浅野さとし 略歴

- ▶ 1982年9月生まれ（39歳）、衆議院議員（2期）
- （株）日立製作所日立研究所 研究員
- 日立労組研究所支部 執行委員
- 大畠章宏元衆議院議員秘書



SNSにて日々、情報発信中！ 浅野さとしの活動をぜひご覧ください！



YouTube



Facebook



Instagram



Twitter



LINE